

平成30年7月3日

# 南の風男子日本代表特集号Ⅱ

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

**やりました！！男子日本代表FIBAワールドカップアジア一次予選突破です！！**

7月2日（火）の未明に台北市で開催された、FIBAワールドカップアジア一次予選最終戦、日本VSチャイニーズ・タイペイのゲームは、**108対68**で日本がぶっちぎりました。

この結果、**男子日本代表は9月13日～行われる、アジア二次予選（開催地未定）に出場することになりました。**

テレビ観戦した感想を書きます。まず、得点、2Pシュート、3Pシュートのスタッツをまとめます。

《得点別上位6人のシュート本数&確率》

	得点	2PTS&%	3PTS&%
ファジーカス	32	10/14 71.4%	3/4 75%
比江島 慎	17	6/6 100%	1/2 50%
八村 塁	13	6/9 66.7%	0 0%
馬場 雄大	13	5/7 71.5%	0 0%
富樫 勇樹	12	0/2 0%	4/6 66.7%
田中 大貴	8	2/3 66.7%	1/1 100%
Total	95	29/41 70.7%	9/13 69.2%

この他に、3Pに関しては篠山 竜青選手が2本、竹内 譲次選手が1本決めています。

全体を見ると、オーストラリア戦に比べて得点する選手に偏りがなくなっています。また、シュート確率もアップしました。特集号Ⅰで触れたように、日本が世界と伍していくため、シュートの決定率を上げることは喫緊の課題です。

ゲーム内容についてです。**（代表的なプレイをピックアップしました）**

オフェンスは、前半ファジーカスとの合わせが光りました。ガードやフォワードがドライブでペイントを突いたり、スクリーンを使ったりしてファジーカスのマーク外して、パスを供給していました。それによって、ファジーカス自身がリバウンドにも行き易い利点もありました。

また、相手のゾーンに対しては、エイベックス（左右どちらかのサイドで、ローポスト、ショートコーナー、ウイングで三角形をつくる）でオーバーロードして攻めたり、サイドチェンジからディフェンスのズレをつくったりして、3Pを打っていました。やるべきことが明確でした。

ディフェンスは前半、得点した時だけ2-3のゾーンを敷いていました。ハリーバックして速攻を防ぐことと相手のエース、デービスを協力して守るのが目的だと思いました。また、マンツーマンディフェンスではガード、フォワード陣は足がよく動き、相手のスクリーンへの対応もできていました。

ディフェンスの課題は、パワーフォワード陣のファウルトラブルへの対応です。1対1のディフェンススカップ（正しいハンドチェック）が望まれます。**ワールドカップが見えてきました！！**